



府中国際交流サロン
FUCHU INTERNATIONAL SALON

くろするろ〜ど

ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいこくじん 日本人と外国人が、なかよく 仲良く助け合っ
たの せいかつ 楽しく生活していくことを願って、活動
をつづ 続けています。

2019/4月号

かいほうし
会報誌

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★

げっかん がつ
〜サロン月間カレンダー4月〜



のうこうだいこうえんかい いけんこうかんかい
「農工大講演会と意見交換会」

きんようごご あじまふみえ
金曜午後ボランティア 安島文江

■「文化交流活動」

4月12日(金) 午前10時30分〜12時

「生け花教室」15名・花代500円

場所：サロン第1会議室・締切り4/11

4月26日(金) 午前10時30分〜12時

「ミニワールドカフェ」

～みんなで楽しくおしゃべり交流会～

費用：100円 締切り4/25

場所：サロン第1会議室

対象：学習者とボランティア

★申し込みと詳しいことはサロン事務局まで。

■「サロン・オリエンテーション」

4月13日(土) 午後2時〜4時

場所：サロン第2会議室(学習会の部屋)

対象：教授法研修会受講者、ボランティア

詳しくは「みんなの広場」をご覧ください。

★申し込みはサロン事務局まで。

■「定例勉強会」

4月17日(水) 午前10時〜12時

場所：サロン第1会議室

テーマ：「日本語能力検定試験の内容と対策」

～N1からN5までの基準を知り、実際の問題

に取り組んでみよう～

対象：ボランティアと学習者

★詳しいことはサロン事務局まで。

2月23日(土)、31名の参加者で、「留学生と地域交流：留学生はどのように府中市民になっていくのか？」という演題で講演会が開催され、東京農工大学グローバル教育院の田崎敦子准教授にわかりやすく丁寧にお話をしていただき、その後、意見交換会が行われました。

東京農工大学では多くの留学生がいろいろな分野で学習・研究を行っています。日本で文化や生活習慣などの違いがある中で、留学生は地域になじみ、生き生きと生活していくことが重要ですが、そのためには大学の教育、生活だけでは不十分で、まさに“留学生が府中市民になっていく”ためには他の支援が必要です。サロンは、日本語学習はもちろんのこと、いろいろなコミュニケーションを図る活発な活動を行い、留学生を地域の中で育てるための大きな支援になっており、これからも継続的に行って欲しい、とのコメントをいただきました。

講演会の後、農工大の先生が二人加わり参加者との意見交換会が行われました。留学生だけではなくその家族にも地域としての支援が必要、また、市民の方から留学生に働きかけることも必要、というような意見がでました。今回の講演会と意見交換会を通じて、留学生に対する地域の支援・交流が重要であることを再認識すると同時に、今後も農工大と定期的にこのような交流を行い、サロンの活動に活かしていきたいと思いました。

「日本語学習発表会報告」

金曜夜部会長 若狭 裕

2019年3月9日(土) 114名の参加者(学習者、家族、ボランティア、一般市民、来賓)を得て開催されました。小学生1名を含む14名の学習者の方に発表していただきました。発表者の出身国は、中国、台湾、ベトナム、インドネシア、フィリピン、オーストラリア、ポーランド、アメリカの8カ国でした。ご来賓として東京武蔵府中ロータリークラブから齊藤会長はじめ7名の方にご来場いただきました。

いろいろな内容の発表がありました。仕事、趣味、家族、将来の夢など、学習者の身近な話題について、また文化、習慣など母国と日本のちがいについての発表でした。いずれもご自分の体験をご自分の言葉で発表されており、心のこもった発表に感動しました。学習者にとって日本での生活は、母国との違いにとまどいを感じることも多いと思いますが、どんなことも前向きにとらえて受け入れておられる生活ぶりが伝わってきました。その中で生きた日本語を身につけてこられたのだと思います。

胡佳さんの司会も大変素晴らしかったと思います。特に発表後のインタビューは発表者の素顔がでてきてほほえましく親しみがわき、発表会が大いに盛り上がりました。懇親会にも多くの方に参加いただき、いろいろな話題に花が咲き楽しいひとときでした。なお、学習者の発表内容は冊子として発行予定です。お楽しみに。

このように、今回も大変有意義で楽しい発表会でした。来年も多くの学習者の方に日頃の学習の成果を積極的に発表して頂きたいと思います。日本語が上手でなくても恥ずかしがることはありません。人前で発表することは自信につながります。発表しなくても他人のスピーチを聞くことも大変参考になります。また多くのボランティアの方にも発表会に参加していただき、日本語教授の参考にしていただければと思います。このような活動を通してサロンでの日本語学習がますます盛んになって行く事を期待しています。

今回は企画・運営を金曜夜部会が担当いたしました。が、各部会の方々にも多数ご協力いただき盛会とすることができました。ご協力有難うございました。



発表した学習者と担当ボランティアの方々

「府中市立第三小学校への訪問」

金曜午後ボランティア 霜鳥信子

春の訪れのような暖かい2月20日(水)、～国際交流サロンの方と交流しよう～の一環で第三小学校の3年生117人(3クラス)とサロンからは、学習者3人サルバンカ・ディビット・リーさん(アメリカ、ボランティア:末田さん)、アルベルト・ピッツォさん(イタリア、ご家族:角南さん)、小野アムパさん(タイ、ボランティア:霜鳥)、市から三竹さんが参加しました。

開会式に続き、学習者の自国紹介。自国語で「こんにちは」で始まり、スクリーンを通し、異文化を紹介し、特に食べ物は興味津々で、子供たちの「わあ」という歓声が響きわたり、目は輝きを放っていました。

質問タイムでは、未知の国を知ろうとする好奇心がひしひしと伝わり、笑顔が印象的でした。

その後、各クラスに別れ、アムパさんと私の3年2組(39人)では、8グループに別れ、「日本の遊び・行事」けん玉、こま、餅つき、花笠踊り等を発表してくれました。福笑い、おみくじには、アムパさんが参加し、大盛り上がり、タイ語で数字(1～10)

の読み方を練習し、楽しく交流が出来ました。「事前学習」で相手や目的に応じ収集した資料で話し合い、考えをまとめたり、意見を述べ合ったりする事により話すこと、聞くことの方が育まれます。

賑やかな教室で子供達が用意してくれた給食を頂き惜しまれながら、お別れの時間になりました。

9月20日から「ラグビー・ワールドカップ」が幕を開け、来年2020年は「東京オリンピック・パラリンピック」が開催され、外国人が増加します。外国に興味を持ち、相手の気持ちを推し量る想像力を養う一助につながる事が出来れば嬉しく思います。



左からアムパさん、サルバンカさん、アルベルトさん

世界の文化

だいさんしょうほうもんかんそうぶん
「第三小訪問感想文」

おの
小野 アムパ (タイ)

2月20日(水)、私は、しもとり先生と府中市立第三小学校をほうもんしました。

さいしょは、私は、小学生のこどもたちのまえで、なにをはなそうかと、きんちょうしてうまくはなせませんでした。

私がかうまれてそだった、タイの国は、どんな国なのか、はなそうとおもいました。

タイのこっきのいろについて、はなしました。タイは、王様と仏教の国です。王様とおぼうさんは、こくみんからたいへんそんけいされています。タイは、日本とくらべて、ひろいのか、せまいのか、きんちょうして、せつめいできませんでした。

でも、タイりょうりの写真をこどもたちに見せたとき、おいしそうと言われて、うれしかったです。

タイは、私の国なのに、うまくせつめいできませ

んでしたが、こどもたちは、みんな元気で、元気なこどもたちにかこまれて、私も元気になりました。

しもとり先生には、いろいろ、たすけていただきましてありがとうございました。

さいごに、こどもたちが、第三小学校から、すだつて社会で、りっぱなおとなになることをおのりします。

いま
「今はとっても幸せ」

うえの
上野サルバシオン (フィリピン)

皆さんこんにちは。私は、サラと申します。約30年前に日本にきました。私は28才迄、フィリピンで不動産関係の仕事をしていましたが、そこで日本人の夫と出会いました。彼はとっても優しく、英語も上手で直ぐに仲良くなりました。彼と仲良くなって数年たった頃、彼は日本に帰国することが決まり、私達は離ればなれにならなければなりませんでした。

その時彼は「私と結婚をしたい」と言ってくれました。でも私は「パパとママがオッケーしてくれたらね」と答えました。そしたら彼は自分の両親をフィリピンに連れてきて、私の両親と会わせ、もうれつにアプローチしてくれました。私はとてもハッピーでしたが、私以上に私の両親がとても喜んでくれました。

まもなく、私達は日本で結婚式をあげ、日本での生活がスタートしました。日本での夫との生活はとても楽しく、北海道、東北地方といろいろな場所を訪れ、美しい景色、美味しい食べ物、今でも、沢山の思い出があります。

私の夫はとても優しく、私が日本での生活でホームシックになった時、夫は「フィリピンでゆっくりしておいで」と言って優しく送り出してくれる事が何度もありました。

数年後、私達は二人の子供にも恵まれ、楽しい生活をする事ができました。しかし、その楽しい夫との生活は、そんなに長くは続きませんでした。結婚してから4年後の5月に突然、夫は天国に旅立って

ガビカ ゆめ 「雅美花の夢」(Gabikin Sen)

ヘスコヴァー ガビカ (スロバキア)

いきました。

あまりにも短い結婚生活でした。毎日泣いてばかりでした。まだ小さな子を抱え、日本語があまり話せなくて、どうして良いのかわからない事ばかりで、とても辛い日々でした。

子供達の学校での行事、市役所での様々な手続き、文化の違う日本での生活は、シングルマザーの私にとってとても大変でした。しかし、私には沢山の支えがありました。亡くなった夫の両親は、外国人の私を我が子のようにサポートしてくれました。また、友達からは心温まるアドバイスもあり、なんとか乗り切ることができました。私を支えてくれた皆さんに心から感謝しています。

今はとっても幸せです。私は3人の孫がいるおばあちゃんになりました。毎週土曜日には、3人の孫が私の家に来てくれます。今は3人の孫と遊ぶことがとても楽しみです。最近、小学一年生の孫が学校で勉強した漢字を「この漢字知ってる～こうやって書くんだよ～」と言って私に教えてくれます。私は孫達の成長がとても楽しみです。私の将来の夢ですが、孫達がもっと大きくなったら一緒に旅行に行ってみたいと思っています。夫との思い出の場所を、孫達と一緒に訪れ、美しい景色、美味しい食べ物を食べ、また、新たな思い出を作りたいと思っています。

最後に、これまでいろいろ御指導くださいました先生方に感謝しています。ありがとうございました。

編集部注：上野サルバシオンさんは、日本語学習発表会でスピーチをする予定でしたが、事情により参加できなかったためスピーチ原稿を掲載させていただきました。



皆さん、こんにちは。私はスロバキア出身で、母国が好きなので、興味を持ってもらいたくて、1月号でスロバキアを紹介させていただきます。今回は「私の夢」

を書かせて頂きます。

はじめに、自己紹介をします。私の名前は雅美花(ガビカ)です。スロバキア人です。私は12年くらい前から、よくアニメを見たり、空手をやったりして、日本の魅力に気が付き、独学で日本語の勉強をはじめました。大学では、日本語とは全然関係のない専門を勉強しながら、暇なときに趣味として日本語を勉強していました。

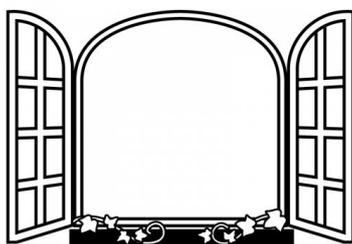
大学の教育学科を卒業してから、2年間中学校でスロバキア語と芸術を教えていましたが、やはり日本語への興味が強く、日本語を使う仕事を探しました。そして、ニトラというスロバキアの町にある外国学校で日本語を教え始め、5年以上になります。

私の生徒たちも、私と同じくアニメや日本の文化に興味があって、趣味として日本語の勉強をしようと思って外国学校に通っている生徒です。生徒たちが日本語に興味をもってくれていることがとても嬉しいです。私は日本語を教えることが好きで、日本語の教師の仕事ができることが嬉しくて、自分で日本語とスロバキア語の教材を作っています。

しかし、ニトラという町には生徒たち以外に日本語を話せる相手がありません。自分の日本語能力があまり上がらないように感じていました。私はもっと日本語が上手になりたいので、日本に来て一年間日本に滞在することにしました。

この一年間様々な体験や経験をしてみたいとたくさん日本のいろんなところを見たいと思っています。もちろん、日本語も上手になりたいと思っています。

私には帰国してから、日本で経験したことを本にして出版するという夢があります。そして、もう一つ大きな夢があります。スロバキア語と日本語の教



科書を作ることです。今は、スロバキア語と日本語の教科書はないので、日本語を教えるとき、いつも英語の教科書を使わざるを得ないんです。

ぜひ、私と会うことがあれば、日本語のことを何でも教えてください。きっと日本語の勉強になると思います！



私のふるさと ~12~

「変わりゆく故郷、北京」

ルー アン ちゅうごく
廬 昂 (中国)

私は北京の「城下町」・宣武区に生まれた。昔から宣武区は回族というハラルの少数民族の集まる場所なので、牛肉と羊肉を中心とする飲食文化はずっと盛んである。そのほか北京料理に小料理の種類が豊富なので、子供の時から「火鍋」、「羊肉串」、「豆汁」は定番料理になって、美味しいことはもちろん、とにかく欠かせないものになった。

少し大きくなって、何回も北京市内で引っ越しした。冬になって雪が降ったら、紫禁城の後ろにある北海公園に、よく両親に連れていかれてスケートに行くようになった。公園は大きくて湖がある。初めてスケート靴を履いて父に支えられて凍った湖面を滑る様子は、今でもはっきり覚えている。時折父と二人で「氷車」もやる。ソリのようなものに乗って、両手で鉄棒を使って氷面に突っ張ってソリを前に滑らせて、楽しくて楽しくてしょうがなかった。

近年の都市再開発、再整備によって、北京は日に日に変わっている。一番変わったのは地下鉄だった。大学時代には地下鉄線路がただ2本しかなかったが、卒業した時に5本に増え、今はなんと15本以上運営している。隣の天津市とは「高鉄(新幹線)」で直結できるようになった。高速道路も急速に建てられた。北京はそもそも高速環状道路網に基づいて発展してきた都市なので、大学時代には環状道路は4本あったが、今は7本になった。一番外の七環路は各郊外の区を繋ぎ、東京の高速道路に例えると、圏央道のようにであろう。

交通網を建設することによってどこに行っても便利になるに違いないが、かえってもっと多くの人を引き付け、もっと多くの土地再開発を招き、北京はもうまるで別の都市になるような気がしてならない。この一連の開発の中に、私が生まれた宣武区も他の区に合併されてなくなってしまった。子供時代のたくさんの思い出がある場所、建物、道標までも建て替えられて悲しかった。ある側面から言えば、これは国の首都としての宿命かもしれない。我々北京人は受け止めるほかないようだ。

「私のふるさとは北京じゃなくて、首都です」。これはあくまでも我々世代の北京人の皮肉的な言い方だが、次世代の人々にはそう言ってほしくない。写真を見るとときだけ思い出すことにならないように、貴重な思い出を彼たちに残すように、「私のふるさとは北京です」と誇りを持って言えるようになってほしい。

とう こう 投◇稿

「ノハさんとの再会」

きんようよる じびきひでお
金曜夜ボランティア 地曳英夫

Dr. Noha Sayed Abdelnaeim (以後ノハさん) は2014年7月から2年3か月、エジプト国費派遣研究生として東京農工大学で研究活動をする傍ら、金曜日夜サロンで私と日本語の勉強をしました。サロンでは皆勤の熱心な生徒でした。今は帰任先の大学での博士論文審査に合格し、獣医学博士です。エジプトはなかなか都合が付きませんでした。彼女から昨年末に、1、2月が過ぎ易いのでどうですかと誘われ、家内と2週間の旅をしました。カイロにはお父さんとノハさんが車で迎えに来てくれて、久しぶりに再会しました。高速道路を3時間程のドライブで彼女の住む町へ到着、ノハさん一家の自宅に2泊しました。エジプトでは昼食が一番大事と、お母さん手作りのご馳走で一家総出の大歓迎です。

翌日は市内、スエズ運河、ノハさんの大学などを

けんがく だいがく ひろ しきちない たてもの てんざい しきち そと
見学。大学は広い敷地内に建物が点在し敷地の外は
さばく という かんきょう のうこうだい ずいぶんこと かんきょう
砂漠という環境で、農工大とは随分異なる環境です。
みつ かめ ごぜん うんてん ふたたび
3日目から午前、ノハさんの運転で再びカイロへ
いどう。カイロ屈指の巨大な市場ハン・ハリーリを案内
してもらい、広大なスペースの市場と溢れんばかり
の人達に圧倒されました。

ギザのピラミッド見物では実物のピラミッドのスケールに感動。クフ王のピラミッドの中にも入り、ラクダにも乗りました。エジプト考古学博物館見学ではツタンカーメンのマスク、ファラオ(古代の王)のミイラ、エジプト各地の遺跡から集めた数々の貴重な古代美術品を鑑賞しました。

6日目の早朝は飛行機でアスワンに移動。3泊4日のナイルクルーズです。クルーズにはノハさんの弟と妹も合流し、クルーズと各地の古代遺跡巡りを楽しみ、古代エジプトのスケールを肌で感じることができました。

ノハさんは全行程一緒。弟・妹さんにも交代でアテンドしてもらい、充実したエジプト旅行を楽しむことができました。



ピラミッドの前で。ノハさん(左)と地曳さん



ノハさん(左)と家族の方々

みな

がくしゅうしゃしょうかい

皆さんよろしく◇学習者紹介

シアヒ ハマル アヌさん(ネパール)



「趣味はネパールダンス」

2018年6月ネパールの西部バチュワル市から日本に生まれました。サロンには今年の2月1日から勉強にきています。

大学はバチュワル市にあるオックスフォード・カレッジで英国文学を勉強し、修士課程はバチュワル・マルチプル・キャンパスで、同様に英国文学を専攻していましたが、結婚することになり、修士の学位はとれませんでした。

ご主人は友人の兄弟で、日本で働いていたのですが、結婚するために2017年ネパールに20日間帰ってきました。そして、すぐに日本に戻ったので、アヌさんはご両親と暮らしていて、2018年ご主人のいる日本にきました。

ご主人はネパール料理店で働いていて、アヌさんもキムチを作っている会社でアルバイトをしています。

趣味はネパールダンスを踊ること、クッキングをすることで、ネパールのお料理ではチキンカレーが一番好きだそうです。

日本の印象はみんながフレンドリーで親切なことですが、アヌさんとても明るくフレンドリーなので、そう感じるのではないかと思います。

まだお子さんはいませんが、将来2人位欲しいな一と思っているそうです。(堤 林)

べん きょう かい ほう こく 勉強会報告

～93～

「和語(やまとことば)について 考えてみよう」

けんしゅうぶかい かよう ゆ み こ
研修部会 萱生由美子

3月6日の勉強会には学習者2名を含む12名が参加しました。

初めに、和語は古くから日本で使われていた言葉で訓読みのことであり、漢語は元々中国の言葉で後に日本語に取り入れられたもので音読みのことです。

まずはウォーミングアップの問題を試してから、両方の印象の違いについて話し合いました。

1. 「駐車禁止」(A)「車を止めないでください」(B)
2. 「感謝しています」(C)と「ありがとう」(D)

1では、漢語の(A)は標識やサインに使われる、命令調、強い印象など。和語の(B)は子供にも分かりやすい、やさしい、お願いする口調など。

2では漢語の(C)は上から目線の感じ、フォーマル、書き言葉など。(D)は和語で、分かりやすく、どんな時でも使える、親しみやすく素直な気持ちが伝わる、話し言葉などでした。

必然的に文の特徴は、和語はひらがなが多く文が長くなり、漢語は漢字が多く文が短くなります。

今度は、日本語の初級者への語彙コントロールを意識しながら、日常使う漢語を和語に置き換えてみる練習です。

「食欲」→食べたいと思う気持ち。

「整頓」→きちんとかたづけること。

「分担」→やることを分けること。みんなでやること。

「遠慮」→ひかえめにすること。気を遣うこと。

「無視」→知らないふりをすること。受け流すこと。

人の話を聞かないこと。

さて、日本語の母語話者には、和語の方が一見やさしそうに思えますが、きちんと・控え目・ふりをする・・・などは学習者への説明が結構難しそうです。参加した中国人学習者は漢語は分かり易く、和

語はとても難しいと話していました。逆に、非漢字圏の学習者には、なるべく和語で分かり易く説明し、上達するに従って漢語の語彙を増やしていくことが大切なようです。

漢語と和語の特徴を知って、状況によって使い分けることが出来るように、私達ボランティアも日頃から心掛けたいものです。



ひろ ば みんなの広場

「サロン・オリエンテーションのお知らせ」

今期の教授法研修会が5月14日(火)から開講されますが、受講される方を対象に、府中国際交流サロンの活動内容を事前に知っていただくためのオリエンテーションを実施いたします。

また、大学や民間の日本語学校で日本語教授法講座を受講され、サロンの教授法研修会を受講せずにすでに活動されているボランティアの方々も是非、この機会にご参加ください。

日時:4月13日(土)午後2時～4時
場所:サロン第2会議室(学習会の部屋)
対象:教授法研修受講者、サロンボランティア
内容:サロンの目的と10部会の活動内容を説明
費用:無料
★参加申し込みはサロン事務局まで。

「バス研修会に参加しよう」



～編集後記～

3月号でお知らせしたように、今年のサロン・バス研修会は「檜原都民の森」を訪れます。奥多摩の檜原村にある自然が豊かな所で、森の中の散策、木材工芸などが楽しめます。詳しいことは、学習会で配布するバス研修会応募チラシをご覧ください。参加申し込みの方法は下記のとおりです。皆さんの参加をお待ちしています。

日時：5月25日（土）午前8時～午後4時半予定

場所：「檜原都民の森」

参加費：無料（現地での経費は自己負担）

定員：40名

応募締切り：4月26日（金）

応募方法：応募用紙に必要なことを書いてサロン事務局に申し込んでください。

★詳しいことはサロン事務局まで。（企画部）

「桜の咲く頃に私は日本を立ちました」-19歳で留学した中国・周恩来元首相の桜の思い出は、恩師・松本亀次郎氏との思い出と重なり日中国交正常化、そして日中友好～花開いたと思います。

桜の思い出は、冬の時期が長くても必ず桜が咲くことを教えます。私達も学習者と共に桜の咲く頃をよき思い出として残したいものです。

会報誌「くろするード」の紙色を隔月で変えます。文化センターの方から「先月号と区別できるように」との要望があり、この1年間試験的にやってみることにしました。（末田）

「今期教授法研修会の募集」

昨年は教授法研修会を休止しましたが、今年教授法研修会（初級Ⅰ・Ⅱ）を実施することになりました。講師も、柏崎先生に代わり新たに山田しげみ先生をお迎えして5月14日から開講いたします。対象は市民の方ですが、ボランティアの方も受講できますので、是非参加をお待ちしています。詳細は下記のとおりです。

<教授法研修Ⅰ>

■全10回（20時間）毎火曜日午後2時～4時

■講師：山田しげみ先生

（東京外大オープンアカデミー講師、元東京外大留学生センター非常勤講師）

■対象：市民35名、現ボランティア5名

■期間：5月14日（火）～7月16日（火）

■受講料：5,000円・テキスト「みんなの日本語」

★申し込みと詳しいことはサロン事務局まで。



【編集】編集長：和田泰弘

会報部会：堤林、和田、岩城、末田

【事務局】電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>